

作文の部

最優秀賞

「さるとおばあちゃんの畑」

荒川西小学校 5年 新井 葉月

おばあちゃんの畑は毎年夏になると、なす、ピーマン、インゲン、ゴーヤ、きゅうりなどのたくさん野菜が収穫できます。今年はおどろいたことに、種をまいてもいないのに、かぼちゃとスイカの芽がでてきました。「家庭用コンポストで出来た、たい肥を畑の肥料に使ったからだ。」とおばあちゃんが言いました。

夏のはじめまだナスもインゲンも収穫し始めたばかりのころ、一匹のサルが人間の目をぬすんで収穫できそうなナスとインゲンを食べてしまいました。せっかく私が食べられると思っていたのがつかりしました。おばあちゃんとお父さんで電気さくを張ることにしました。これでサルにとられなくてすむ！と私は心の中で思っていました。けれど一匹の頭のいいサルが、さくの一番下から入ってきます。ナスとかぼちゃは食べられてしまいました。かぼちゃは固いけれどきれいに皮と種が残さ

のを食べるのか不思議でしたが、あまりし、お腹がいっぱいになるからだろうな……と思いました。そういえば、スイカは大丈夫かな!?その時はまだ小さかったで見つからなかったようです。

日に日に大きくなるスイカは、鳥にもねらわれやすいので、おばあちゃんと一緒にどうにかかくそうと思って、ビニール袋に入れてみました。相変わらず毎回一匹のサルがさくの中に入っては、ナスとかぼちゃを食べてしまいます。

「今年はサルのためにかぼちゃを育てているようなものだ。」とおばあちゃんもがっかりしていました。けれど、スイカには気づいて

いません。私は、良かった、このまま見つからないといいなと思いました。

お盆になりました。無事にスイカを収穫してお盆棚にかざることが出来ました。とてもうれしかったです。結局、このスイカは小玉スイカだったのか大玉スイカだったのかはわからなかったけれど、サルにとられなくてうれしかったです。

ある時におばあちゃんが、「夏野菜はどんどん大きくなるから、毎日収穫しなくちゃだね。」と言いました。私もお手伝いをしましたが、たくさんあって大変だった

のと暑かったので、「もうとらなくていいんじゃない?」と言ったら、

「ちゃんと全部とらないと大きくなりすぎて食べられなくなったり、まだ小さいインゲンに栄養がいなくなっちゃうよ。」

とおばあちゃんに言われました。私は、育てるのも大変だけど、収穫くも大変だと感じました。

いつでもおいしい野菜が食べられるのは幸せだなあと感じました。もちろん農家の人も大変なことだと思います。私も草むしりや水やりを手伝って、みずみずしくおいしい野菜をおばあちゃんを作りたいと思いました。来年のサル対策は何にしようかな?

優秀賞

「あまいトマトに大へんしん」

南小学校 4年 知久 憬翔

した。おいしいトマトがたくさん取れるように、トマトに話しかけました。「あまくておいしいトマトにへんしんしてね。」と

毎朝、トマトに水やりをするのがぼくの日課です。他にも、ナスを育てているのでそれにも水をあげます。

六月ごろ、暑い日が続く、かれそうになつて元気ありませんでした。ぼくは、どうしたんだろうと不安になり、ネットで調べてみました。肥料が足りないと分かり、すぐに肥料を買いに行きました。肥料をあげた後は、ぐんぐん伸び、黄色い花が咲き始めました。そして、緑の実ができてきました。

ぼくは、毎朝、大きくなったトマトを見るのが好きなので、早起きもできるようにしました。その後も毎日水やりを続け、緑から赤にへんしんしていききました。

ある日、真っ赤な実のトマトが二つできました。今年の第一号です。

うれしくて、「やったあー。」

とさけんでしまいました。お姉ちゃんと一つずつトマトをやさしく取りました。

「いつせいの、せー。」

で、いっしょに口の中に入れました。すごくあまくて、すこしきんみが強かったです。

今は、たくさんトマトが取れます。れいぞう庫の中でひやすと、もつとおいしいです。水やりをわすれてしまうと、おいしいトマトができずかれてしまいます。野菜作りは、毎日お世話をしないといけないので、すごく大変です。ぼくも、虫が実を食べないように毎日、虫がいなかチェックをしています。

小さかったなえから、たくさんトマトが毎日できます。ねがいを含めて、やさしく大事に育ててあげると、それにへんじしてくれるように、おいしいトマトにへんしんしてくれます。おいしいトマトに育ってくれて、ありがとうございます。

優秀賞

「ミニトマトを作ったこと」

尾田蒔小学校 5年 島崎 優歩

今年の夏も、すごく暑い。私なら外に出るのもイヤなのに、私のおじいちゃんとおばあちゃんは、あせびつしよりにながら、畑仕事をしています。毎日のように畑へ行つて草むしりや世話をしたり、休みがあまりなく、たいへんだなあと思いました。おじいちゃんの畑では、ネギ・きゅうり・じゃがいも、さつまいも、白菜・大根・ブルーベリーなどを作っています。そのおかげで私は新せん

な野菜が食べられるので、うれしいです。

今年もおじいちゃんに教わりながら、私の大好きなミニトマトを作ってみることにしました。そろそろしゅうかく出来るかなと楽しみにしていたら、何個かトマトがわれていて、ショックでした。おじいちゃんから、気温が高かったり、カラカラの土に一気に雨がふるとわれてしまうと聞いて自然のことなので、私にはどうすることも出来ないの、残念でした。でも、何とかしゅうかく出来ました。冷やして食べてみると、すごくあまくておいしかったです。やっぱり、自分で一生けん命育てたミニトマトは、最高でした。家族にも食べてもらったら、「すごくおいしい。」と言ってくれました。野菜作りをしている人は、おいしいと言ってもらえるとうれしいから、がんばれるのかなと思いました。

ニュースで、農家でも高い化が問題になっていることを知ってはいけど、今年から、おじいちゃんも年であぶないので、お父さんが代わってトラクターを運転していました。もし、手伝う人がいなかったら、野菜は作れないので、農家を続けることは大変で、すごい事なんだと感じました。

七月に山形県の大雨で、もがみ川

があふれて田んぼや畑がダメになってしまったと悲しんでいる人をテレビで見て、私もとても悲しくなりました。私達が、当たり前のように食べている野菜や果物は、当たり前でなく、農家の人達ががんばって作り続けていてくれるからだと思いました。

これからは、なるべく残さないように大事に食べて、ありがたいの気持ちを含めて「いただきます」「ごちそうさま」と言いたいです。

私も、少しでも力になりたいので、来年もまた野菜作りをがんばりたいです。

JAちちぶ特別賞

「家の畑で野菜を育てる」

南小学校 6年 加藤 正慎

ぼくの家には、小さな畑があります。季節によつて色々な野菜が植えられています。その中でも春と夏は畑がとてにぎやかになるので、ぼくはこの季節の野菜がとても好きです。

夏の畑には、ぼくの大好きなシシトウ、トマト、オクラ、ナス、インゲン、サトイモ、キュウリなど、色々な形、色々な野菜がたくさんできます。秋、冬の畑よりも種類が多く、色とりどりだからです。

ぼくの仕事は、朝夕の水やりと収かくです。朝はシャキとした野菜が昼ごろにはぐつたりとなつていて、暑すぎるせいか、とても、つらそうです。オクラは一日取りのがしただけで、とても大きくなつてしまつて、固く食べられなくなつてしまうことにおどろきました。

きゅうりはとつてそのままかじると、きゅうりの本当の味がするようにな気がしておいしいです。野菜ごとに食べにくる虫がちがうことも、収かくしていて気が付きました。雨の後は栗の木の下にかくれて雨やどりにいたりして、きらわれ者のがいがかわいく思えました。

今年の夏は、四十度近い日が続いたり、野菜がとても苦しうでした。梅雨は雨が、少なく、雨のときはどしゃぶりの大雨で、野さいがたおれてしまつたりして、枝がおれてしまつたりしています。温暖化、線状降水帯という言葉にニュースで聞くことが多いのですが、家の畑でも、ひがいをうけているとかんじました。十年後、二十年後その先も農業ができるように、地球のかんきょうをどうすれば守ることができるのか、考え実行していきたいと思いました。太陽、水、土でできる野菜は地球と深いかんけいがあると家の畑を通じて学びました。